

報道関係各位

2024年11月18日

国土交通省認定 GX(グリーンTRANSフォーメーション)建設機械

電動バックホー「TB20e」レンタル開始

株式会社アクティオ

総合建設機械レンタルの株式会社アクティオ(本社:東京都中央区日本橋、代表取締役社長兼 COO:小沼直人、以下アクティオ)は、環境に配慮した株式会社竹内製作所製の電動バックホー「TB20e」のレンタルを、2024年11月18日(月)から順次開始いたします。



電動バックホー「TB20e」

現在、道路の掘削などに使用される建設機械の「バックホー」は、軽油を燃料としたディーゼルエンジンのものが主流となっています。

今回レンタルを開始する「TB20e」は、リチウムイオン電池式のため、排気ガスを排出しない環境に優しいバックホーです。また、ディーゼルエンジンタイプと同等のパワーながら、低振動・低騒音なため、周辺環境への影響も抑制できます。

この商品は、国土交通省により「GX(グリーンTRANSフォーメーション)建設機械」に認定されています。

アクティオは今後も「レンタルティング」のノウハウを活かし、脱炭素社会の実現に寄与する商品やサービスの提供をしていきます。

■電動バックホー「TB20e」特長

- ①リチウムイオン電池式で、排気ガスが出ないため環境に優しい
- ②ディーゼルエンジンタイプのバックホーに比べ、低振動・低騒音のため作業環境にも優しい
- ③ディーゼルエンジンタイプのバックホーと変わらないパワーと操作性
- ④1回の充電で最大8時間まで稼働可能
- ⑤ディーゼルエンジンのメンテナンスに必要な費用が不要でランニングコスト削減が可能

■NETIS 登録番号:KT-220165-A

■充電装置



■操縦席、外観



■スペック

型式				TB20e
クローラーシュー				ゴムシュー
走行速度	(km/h)			2.1~4.0
接地圧	(kPa)			32.1
性能寸法	最大掘削高	(mm)		3,740
	最大ダンプ高	(mm)		2,705
	最大掘削深さ	(mm)		2,390
	最大掘削半径	(mm)		4,090
鉛蓄電池 容量	(V-A・h)			12-45
リチウムイオンバッテリー 容量	(kWh)			24.7
バッテリー充電時間 ^{※1}	外置充電器	0%~100%	(h)	約4 ^{※2}
		20%~80%	(h)	約2 ^{※2}
	車載充電器	0%~100%	(h)	約10 ^{※3}
		20%~80%	(h)	約6 ^{※3}
バッテリー電圧	(V)			73
騒音値	[dB(A)]			78
寸法	全長 L	(mm)		4,050※ブレード後方時の全長
	全幅 W	(mm)		980~1,300
	全高 H	(mm)		2,280
質量	(kg)			1,855

※1 充電時間は充電器への入力電圧によって異なります

※2 入力電圧 400V、入力電流 16A での充電時間(目安) です

※3 入力電圧 200V、入力電流 16A での充電時間(目安) です

■GX 建設機械認定制度について

国土交通省が認定する、建設施工現場における電動建機の普及による脱炭素化を図るため、令和 5 年 10 月 17 日に開始した制度。

1.目的

カーボンニュートラルに資する GX 建設機械の普及を促進し、もって建設施工において排出される二酸化炭素の低減を図るとともに、地球環境保全に寄与することを目的とする。

2.対象

次のいずれかの駆動方式の電動バックホー又は電動ホイールローダとする

①バッテリー式:蓄電装置に充電した電気エネルギーを動力とした駆動方式

②有線式:有線により外部から供給される電力を動力とした駆動方式

3.普及促進

型式認定を受けた建設機械は認定ラベルを付けることが可能



認定ラベル

■アクティオが展開する“レンサルティング”とは



アクティオのコンセプトである「レンサルティング」は「レンタル」と「コンサルティング」を合わせた造語で、商標登録しています。会長の小沼光雄は著書の中で次のように紹介します。『従来、建機の世界では「つくる」「売る」という要素が主だったところに、「知恵やノウハウをプラスして貸す」という新たな価値提案をビジネスとして行ったわけです』（算数とハートの経営 2014年 幻冬舎）。現在の建設機械は、非常に高度化しており、せっかくの機能も、現場で最大限に活用することは難しくなっています。目的を果たすため、状況に応じてどの機能をどのように使

うのか。アクティオは単に機械を貸すだけでなく、専門的なノウハウを持ってサポートします。建設機械を熟知する専門レンタル会社だからこそ可能な、しかしレンタルの枠組みを飛び出した提案型のサービスがレンサルティング。時代とともに、その意義を拡大し、進化を続けています。

【アクティオ公式サイト】<https://www.aktio.co.jp/>

【アクティオ Facebook ページ】<https://www.facebook.com/aktio.jp/>

■本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社アクティオ 広報部 担当:成澤、五十嵐

TEL:03-6262-7867 FAX:03-6262-7982 e-mail:koho@aktio.co.jp